

ジベレリン水溶剤 ジベラ錠	取扱メーカー： 協友アグリ，住友化学 原体メーカー： 住友化学
成分： ジベレリン〔ジベレリン剤〕……………3.58% （1錠700mg中にジベレリン25mg）	性状： 白色発泡性錠剤 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 計量しやすいように，粉末を錠剤化した。
- その他ジベレリン協和粉末の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【薬効・薬害等の注意】……………

- ジベレリン協和粉末の項参照。

ジベラ錠	水	着色剤
8錠	2ℓ	1包（1g）

【使用上のポイント】……………

- ジベレリン協和粉末の項参照。
- 次の表に従って所定量の水に投入する。
- 着色剤はぶどう（デラウェア種）にジベレリン処理する場合に限り必要に応じて使用する。ジベレリン処理した房と処理しない房とが見分けやすくなる。ぶどう以外には使用しない。なお，着色剤はジベラ錠が水に完全に溶解した後に加える。

ジベレリン濃度 ジベラ錠	1 ppm	5 ppm	10ppm	25ppm	50ppm	100ppm
1錠当りの水量	25ℓ	5ℓ	2.5ℓ	1ℓ	500ml	250ml
2錠当りの水量	50ℓ	10ℓ	5ℓ	2ℓ	1ℓ	500ml
3錠当りの水量	75ℓ	15ℓ	7.5ℓ	3ℓ	1.5ℓ	750ml
4錠当りの水量	100ℓ	20ℓ	10ℓ	4ℓ	2ℓ	1ℓ
8錠当りの水量	200ℓ	40ℓ	20ℓ	8ℓ	4ℓ	2ℓ

注)すでに展着剤が含まれているので，さらに展着剤を加える必要はない。

【適用と使用方法】

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
ぶどう（ヒム ロッドシードレ スを除く2倍 体米国系品 種） 〔無核栽培〕	無種子化、 果粒肥大 促進	満開予定日 約14日前 (第1回目) 及び満開約 10日後(第 2回目)	第1回目 100ppm、 第2回目 75～ 100ppm	果房散布 の場合は 30～ 100ℓ	第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬又 は果房散布	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内
ぶどう（ヒム ロッドシード レス）	果粒肥大 促進	着粒後	100ppm	—	果房浸漬	1回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内	1回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内
ぶどう（デラ ウェア） 〔無核栽培〕	無種子化、 果粒肥大 促進	満開予定日 約14日前 (第1回目) 及び満開約 10日後(第 2回目)	第1回目 100ppm、 第2回目 75～ 100ppm	果房散布 の 場合は 30～ 100ℓ	第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬又 は果房散布 第1回目： 花房浸漬 (ホルクロ ルフェニ ロン1～ 5ppm 液に 加用) 第2回目： 果房浸漬又 は果房散布	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内
ぶどう（キャン ベルアーリー を除く2倍体 米国系品種） 〔有核栽培〕	果粒肥大 促進	満開10～ 15日後	50ppm	—	果房浸漬	1回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内	1回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内
ぶどう（キャン ベルアーリー） 〔有核栽培〕	果房伸長 促進	満開予定日 約20～30 日前（展葉 3～5枚時）	3～5ppm	30～ 100ℓ	花房散布	1回	2回以 内、 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計3 回以内

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
ぶどう (2 倍 体欧州系品 種) [無核栽培]	無種子化, 果粒肥大 促進	満開時～ 満開3日後 (第1回目) 及び満開 10～15 日後 (第2 回目)	第1回目 25ppm, 第2回目 25ppm	—	第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内	3 回 以 内, 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計5 回以内
		満開3～5 日後 (落花 期)	25ppm		花房浸漬 (ホルクロ ルフエニユ ロン10ppm 液に加用)	1回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内	
	果房伸長 促進	展葉3～5 枚時	3～5ppm	30～ 100 ℓ	花房散布	1 回	
ぶどう (ヒロ ハンブルグを 除く2倍体欧 州系品種) [有核栽培]	果粒肥大 促進	満開10～ 20日後	25ppm	—	果房浸漬	1 回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内	1 回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内
ぶどう (ヒロ ハンブルグ) [有核栽培]		満開10～ 15日後	50～ 100ppm	果房散布 の場合は 70～80 ℓ	果房浸漬又 は果房散布	合計2回以 内	
ぶどう (キン グ デラ, ハ ニーシードレ ス, BK シー ドレスを除く 3倍体品種)	着粒安定, 果粒肥大 促進	満開時～満 開3日後(第 1回目) 及 び満開10 ～15日後 (第2回目)	第1回目 25～ 50ppm, 第2回目 25～50ppm	—	第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内	3 回 以 内, 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計5 回以内
	果房伸長 促進	展葉3～5 枚時	3～5ppm	30～ 100 ℓ	花房散布	1 回	
ぶ ど う (BK シードレス)	着粒安定, 果粒肥大 促進	満開時～満 開3日後(第 1回目) 及 び満開10 ～15日後 (第2回目)	第1回目 25～ 50ppm, 第2回目 25～50ppm	—	第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬	2回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内	2回 以 内, 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計4 回以内
		満開3～6 日後	100ppm		花房又は 果房浸漬	1回、但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内	
ぶどう (キン グデラ)		満開時～ 満開3日後 (第1回目) 及び満開 10～15日 後 (第2回 目)	第1回目 50ppm, 第2回目 50～100ppm	果房散布 の場合は 50～ 100 ℓ	第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬又 は果房散布	2 回	2 回

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
ぶどう (ハニー シードレス)	着粒安定, 果粒肥大 促進	満開3～6 日後	100ppm	—	花房又は 果房浸漬	1 回, 但し 降雨等により 再処理を行 う場合は合 計2回以内	1回, 但し降 雨等により 再処理を行 う場合は合 計2回以内
ぶどう (サ ニールージュ を除く巨峰 系4倍体品 種) [無核栽培]	無種子化, 果粒肥大 促進	満開3～5 日後 (落花 期)	25ppm		花房浸漬 (ホルク ロルフェ ニユロン 10ppm 液 に加用)	より再処理を 行う場合は 合計2回以 内	3 回 以 内, 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計 5回以内
		満開時～満 開3日後 (第 1回目) 及 び満開10～ 15日後 (第 2回目)	第1回目 12.5～ 25ppm, 第2回目 25ppm		第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬	2 回, 但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計4回以 内	
	無種子化	満開時～ 満開3日後	12.5～ 25ppm		花 房 浸 漬 (満開10～ 15日 後 に ホルクロル フェニユロ ンによる果 粒 肥 大 促 進処理を行 うこと)	1 回, 但し 降雨等によ り再処理を 行う場合は 合計2回以 内	
	果房伸長 促進	展葉3～5 枚時	3～5ppm	30～ 100 ℓ	花房散布	1 回	

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
ぶどう（サ ニールー ジュ） [無核栽培]	無種子化、 果粒肥大 促進	満開3～5 日後 (落花期)	25ppm	—	花 房 浸 漬 (ホルクロル フェニユロ ン10ppm 液に加用)	1回、但し 降雨等により再処理を 行う場合は 合計2回以 内	3回 以 内、 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計 5回以内
		満開時～満 開3日後 (第1回目) 及び満開 10～15日後 (第2回目)	第1回目 12.5～ 25ppm、 第2回目 25ppm		第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬	2回、但し 降雨等により再処理を 行う場合は 合計4回以 内	
	無種子化	満開時～ 満開3日後	12.5～ 25ppm		花房浸漬 (満開10～ 15日 後 に ホルクロル フェニユロ ンによる果 粒 肥 大 促 進処理を行 うこと)	1回、但し 降雨等により再処理を 行う場合は 合計2回以 内	
	果房伸長 促進	展葉3～5 枚時	3～5ppm		30～ 100 ℓ 花房散布	1 回	
	着粒密度 低減、 果粒肥大 促進	満開予定日 14～20日 前(第1回 目)及び満 開10～15 日後(第2 回目)	第1回目 25ppm、 第2回目 25ppm		第1回目： 花 房 浸 漬 (ホルクロ ルフェニユ ロン3 ppm 液に加用) 第2回目： 果房浸漬	2回、但し 降雨等により再処理を 行う場合は 合計4回以 内	
ぶどう（巨峰） [有核栽培]、 ぶどう（ルビー ロマン） [有核栽培]、 ぶどう（ハニー ビーナス） [有核栽培]	果粒肥大 促進	満開10～ 20日後	25ppm	—	果房浸漬	1回、但し 降雨等により再処理を 行う場合は 合計2回以 内	1回、但し 降雨等により再処理を 行う場合は 合計2回以 内
ぶどう（高尾） ぶどう（ふく しずく）		満開時～ 満開7日後	50～ 100ppm		花房又は 果房浸漬		
ぶどう（あづ ましずく）		満開時（第 1回目）、 満開4～ 13日後（第 2回目）	第1回目 25～ 50ppm 第2回目 50ppm		果房浸漬	2回 以 内、 但し降雨等 により再処 理を行う場 合は合計4 回以内	
か ん き つ (苗木、但し 温州みかんを 除く)	花芽抑制 による樹 勢の維持	12～3月	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布	1 回	1 回

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
か ん き つ (不知火, ぼ ん かん, か ぼす, はる み, ワシント ンネーブル, 日向夏, すだ ち, 平兵衛酢, 長門ユズキチ (無核), 温州 みかん, きん かんを除く)	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布	1 回	1 回
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後		50～ 100 ℓ	散布		
不 知 火 は る み	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	0.5～ 1ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		3回以内
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後		50～ 100 ℓ	散布		
	水腐れ軽 減	着色終期 但し, 収穫7日前 まで		50～ 500 ℓ	果実散布		
ぼ ん かん	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		1 回
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後		50～ 100 ℓ	散布		
	水腐れ軽 減	着色始期～ 4分着色期 但し, 収穫21日 前まで	0.5ppm	50～ 500 ℓ	果実散布		
長門ユズキチ (無核)	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後		50～ 100 ℓ	散布		
	着果安定	開花期～ 開花終期	50ppm		花又は 果実散布		
	果皮の緑 色維持	収穫予定 14～30日前	10～ 25ppm	50～ 400 ℓ	果実散布		

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
す だ ち	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布	1 回	1 回
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後		50～ 100 ℓ	散布		
	果皮の 緑色維持	収穫予定 7～30日 前	5～25ppm	50～ 400 ℓ	果実散布		
平 兵 衛 酢 か ぼ す	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後		50～ 100 ℓ	散布		
	果皮の緑 色維持	収穫予定 14～30日 前	10～ 25ppm	50～ 400 ℓ	果実散布		
ワ シ ン ト ン ネーブル	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		
	落果防止	満開10～ 20日後の 幼果期	500ppm	30～40 ℓ	幼果に散布		
日 向 夏	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		
	無種子 化, 落果防止	満開7～ 10日後	300～ 500ppm	30～40 ℓ	果実散布		
温 州 み か ん (苗木)	花芽抑制 による樹 勢の維持	11～1月	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		
			10ppm		立木全面散 布又は枝別 散布 (プ ロヒドロ ジャスモ ン1000～ 2000 倍液 に加用)		

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
温州みかん	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	10ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布（プロ ヒドロ ジャスモン 1000～ 2000 倍液 に加用）	1 回	3 回以内
			25～ 50ppm		立木全面散 布又は枝別 散布		
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後	10ppm	50～ 100 ℓ	散布（プロ ヒドロ ジャスモン 1000～ 2000 倍液 に加用）		
					果実散布 （プロヒド ロジャスモン 1000～ 2000 倍液 に加用）		
きんかん	浮皮軽減	収穫予定日 の 3カ月前 但し、収穫 45日前ま で	1～5ppm	100～ 400 ℓ	果実散布 （プロヒド ロジャスモン 1000～ 2000 倍液 に加用）	1 回	1 回
	花芽抑制 による樹 勢の維持	収穫直後～ 収穫約1カ 月後	25～ 50ppm	50～ 250 ℓ	立木全面散 布又は枝別 散布		
	落果防止	開花始め～ 満開10日 後			散布		
	着果安定	一番花開花 期	300ppm	30～60 ℓ	花に散布		
びわ（3倍体）	着果安定、 果実肥大 促進	満開予定日 約7日前～ 満開時（第 1回目）及 び第1回目 処理後35 ～60日（第 2回目）	第1回目 200ppm、 第2回目 200ppm	—	ホルクロル フェニユロ ン20ppm 液に加用、 第1回目： 花房浸漬 第2回目： 果房浸漬	2 回	2 回
すもも（貴陽）	着果安定	満開20～ 30日後（第 1回目）満 開50～60 日後（第2 回目）	100～ 200ppm	20～50 ℓ	果実散布		
アセロラ	着粒安定	開花期	25ppm	100～ 400 ℓ	花に散布	1花当り 1回	1花そう当 り3回以内
野菜類	発芽促進	は種前	50～ 200ppm	—	種子浸漬	1 回	1 回

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
みつば (軟化栽培を除く)	生育促進	本葉2～3枚時(第1回目)とその2週間後(第2回目)但し、収穫14日前まで	10ppm	50～100 ℓ	葉面散布	2回	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
み つ ば (軟化栽培)		根株伏込時	20～50ppm		根株上面に散布	1回	2回以内(種子への処理は1回以内、根株伏込時は1回以内)
ト マ ト	空どう果防止	開花時	10ppm	1花房当り 5 ml	花房散布(トマト落果防止剤と併用)	1花房当り 1回	種子への処理は1回、1花房当り1回
な す	着果数増加		10～50ppm	100～150 ℓ	葉面散布	1回	2回以内(種子への処理は1回以内、は種後は1回以内)
さやいんげん (矮性(促成又は半促成栽培))	節間伸長促進	本葉0.5～1.5枚展開時	5ppm	1株当り 2 ml	茎頂部散布	2回以内	3回以内(種子への処理は1回以内、は種後は2回以内)
しそ(花穂)	穂の伸長促進 花径の伸長促進	出穂期但し、収穫5日前まで	5ppm	50 ℓ	茎葉散布		
い ち ご (促成栽培)	着果数増加 熟期促進	休眠に入る直前(冬場の低温期)	10ppm	1株当り 5 ml	茎葉全面散布	1株当り 6回以内	1株当り 10回以内
い ち ご	果柄の伸長促進	頂花の出蕾直後～開花直前			株の中心部に散布	1花房当り 1回	
い ち ご (親株床)	ランナー発生促進	採苗時ランナー発生直前～発生初期	50ppm	1株当り 10 ml	茎葉散布	1株当り 1回	1株当り 1回
メ ロ ン	着果促進	開花前日～翌日	200ppm	1花当り 2～5 ml	散布(4-CPA 剤50倍液に加用)	1花当り 1回	種子への処理は1回、1花当り1回
う ど (春うど)	休眠打破による生育促進	伏込時	50ppm	1株当り 20～25 ml	根株散布	1回	1回
			50～100ppm	—	根株浸漬		

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
た ら の き (促 成 栽 培)	萌芽促進	伏込時	50ppm	100～ 200 ml / m ²	駒木散布	1 回	1 回 2 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内、は種後 は 1 回以内)
ふ き	生育促進	葉数 3～4 枚時 (草丈 10～30 cm 頃)	25ppm	50～ 300 ℓ	全面散布		
セ ル リ ー	生育促進 肥大促進	収穫予定 7～20 日 前まで	50～ 100ppm	20～ 200 ℓ	葉面散布		
畑 わ さ び	花茎の抽出時期促進及び発生量増加	花芽分化後の 10 月下旬 (第 1 回目) 及び第 1 回目処理後約 10 日後の 11 月上旬 (第 2 回目) 但し、収穫 60 日前まで	第 1 回目 100ppm, 第 2 回目 100ppm	1 株当り 2 ml	株の中心部に散布	2 回	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
ば れ い し ょ	休眠打破による萌芽促進及び小粒いもの増収	植付前	5～10ppm	—	30 秒間 種いも浸漬	1 回	1 回
				250～ 300 ml / 種いも 10kg	種いも散布		
種 い も 用 ば れ い し ょ	休眠打破による萌芽促進及び全粒種いもの増収			—	30 秒間 種いも浸漬		
				250～ 300 ml / 種いも 10kg	種いも散布		
シ ク ラ メ ン	開花促進	9 月中・下旬	1～5ppm	1 株当り 2～5 ml	花蕾を含む芽の中心部に散布		
プ リ ム ラ (マラコイデス)		11 月上旬頃の花蕾出現直後	10～ 20ppm		株の中心部に散布		
みやこわすれ	開花促進、草丈伸長促進	1 月中旬の保温開始時から 7～10 日間隔	50～ 100ppm	1 株当り 10～15 ml	葉面散布	3 回	3 回以内
き く		生育期	25～ 100ppm	50～ 100 ℓ	茎葉散布	2 回以内	2 回以内
し ら ん		植付時	50ppm	—	30 分間株浸漬	1 回	1 回

作物名	使用目的	使用時期	使用濃度 (ジベレリン ppm)	10 a 当り 使用液量	使用方法	本剤の 使用回数	ジベレリンを含む農 薬の総使用回数
りんどう	発芽促進	は種前	50～ 200ppm	—	種子浸漬	1 回	2 回以内 (種子への 処理は 1 回 以内、は種 後は 1 回以 内)
	生育促進	定植直前又は 定植 1～5 週間後	100ppm	50～ 150 ℓ	茎葉散布		
		収穫後		1 株当り 5～10 ml	切株散布		
カラー		植付時	50ppm	—	球根浸漬		2 回以内
		花茎伸長期		50～ 150 ℓ	茎葉散布		
アイリス		植付時	50～ 100ppm	—	球根浸漬		1 回
スパティ フィラム	開花促進	出荷予定期 の 2～3 カ 月前	250～ 500ppm	30～ 40 ℓ	茎葉散布		
トルコ ギキョウ	生育促進	生育期間中 にロゼット 化した時	50～ 100ppm				
ソリダゴ			活着直後 又は萌芽期	25ppm			
花き類 (りんどう を除く)	発芽促進	は種前	50～ 200ppm	—	種子浸漬		
アザレア	開花促進	開花予定日 約 1 カ月前	250～ 500ppm	30～ 40 ℓ	茎葉散布		
さつき (施設栽培苗)	茎の伸長 促進、 花芽分化 の抑制	茎の伸長初 期～伸長終 期(開花盛 期以降) 1 ～2 週間間 隔	100～ 200ppm	50～ 100 ℓ	頂芽に十分 散布	3 回	3 回以内
さくら (切り 枝促成栽培)	休眠打破 による生 育促進	休眠期	25～ 50ppm	50～ 200 ℓ	切り枝 全面散布	1 回	1 回
				—	切り枝浸漬		